

倒産集計**信用交換所京都本社**

09年10月繊維倒産

件数・負債とも前年同月比3割減も予断許さず

全 国 発生件数 = 43件 負債額 = 147億8200万円

2009年(平成21年)10月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)の発生件数は43件で、前月比で1件(2.4%)増加し、前年同月比で24件(35.8%)減少した。

負債額は147億8200万円で、前月比で22億9500万円(13.4%)、前年同月比で64億9100万円(30.5%)減少した。

負債額10億円を超える大型倒産は(株)ヨウジヤマモト(東京都品川区、婦人・紳士服製造・小売、負債額78億6200万円)、(株)大村商事(神戸市中央区、婦人服・洋品小売、同10億円)の2社。(株)ヨウジヤマモトの負債額が全体の53.2%を占めており、負債額5億円以上の先を見ても田川テキスタイル(株)(岡山県倉敷市、厚織物卸、同9億5000万円)、堀江繊維(株)(大阪市中央区、綿織物卸、同5億9000万円)の4社にとどまるなど、比較的小規模の倒産が大勢を占めた。

当月は倒産件数、負債額ともに前年同月対比で3割強の減少と、数字だけを捉えれば最悪期からは脱しているように見える。しかし、世界経済の動向を受けて為替変動や日経平均株価の下落など大手企業への影響が懸念され、先行きの見通しは不透明な状況が続いている。

繊維業界においても、雇用や所得の不安から消費者の節約志向が一層進む中、大手量販店などは低価格のPB商品の開発・販売に注力して対応しているものの、デフレの進行や価格競争の激化などから経営環境は依然として厳しく、この先も売り上げ確保に苦慮するものと思われる。

景気回復の兆しが見えない中で金融機関の支援姿勢も慎重度合いを強めており、資金需要が高まる年末を控え、倒産が多発することが予測される。

業種別では、「小売商」が14件と全体の32.6%を占め、以下は「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」7件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」5件、「その他」4件、「染色整理・特殊加工」「織物製造」「織物卸」「寝具・インテリア製品製造卸」各3件、「呉服・和装製品製造卸」1件。

原因別では、「業績ギリ貧」が34件で全体の8割弱を占め、依然として不況型倒産が大勢を占めている。以下は「資金力薄弱」4件、「業況急変」3件、「過剰投資」「信用度薄弱」が各1件だった。

京 都 発生件数 = 0件(前年同月3件) 負債額 = 0万円
(前年同月1億6300万円)滋 賀 発生件数 = 0件(前年同月2件) 負債額 = 0円
(前年同月3000万円)